

第10回 史跡江戸城外堀跡保存活用計画策定委員会 会議要録

- I 日時 : 令和8年3月24日(火) 15時00分～16時45分
- II 会場 : 神保町出張所・区民館 2階 洋室
- III 出席者 : 委員長 : 谷川 章雄(早稲田大学人間科学学術院名誉教授)
副委員長 : 吉田 ゆり子(東京外国語大学総合国際学研究院名誉教授)
委員 : 齋藤 慎一(公益財団法人東京都歴史文化財団・江戸東京たてもの園
学芸員(専門調査員))
委員 : 杉崎 和久(法政大学法学部政治学科教授)
委員 : 小野 良平(立教大学観光学部観光学科教授)
委員 : 窪田 亜矢(東北大学大学院工学研究科教授)【オンライン出席】
欠席委員 : 中澤 克昭(上智大学文学部教授)
欠席委員 : 佐藤 信 (東京大学名誉教授・横浜市歴史博物館館長)

※順不同、敬称略

オブザーバー

文化庁 文化財第二課 史跡部門 【オンライン出席】
東京都 教育庁地域教育支援部 管理課 埋蔵文化財担当

事務局

千代田区 地域振興部 文化振興課
港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課
新宿区 文化観光産業部 文化観光課

事務局補助

株式会社パスコ

IV 議 事

1 確認事項について

【確認事項 1】 前回委員会の議事録の確認

- ・事務局より、第 9 回委員会の議事録の修正箇所について報告した。
→これをもって第 9 回委員会の議事録を確定とした。

【確認事項 2】 史跡等の本質的価値の修正趣旨について

- ・事務局より、前回委員会で審議した「史跡等の本質的価値」について修正案を報告した。前回委員会で本質的価値を 4 項目、本質的価値に付随する価値を 2 項目で提案したが、近代に関わる項目と景観に関わる項目をそれぞれ統合し、今回は本質的価値を 3 項目に減らした案を提案した。
→審議事項 2 の「保存活用の大綱」と照らし合わせると、景観や風致に関する価値は史跡江戸城外堀跡の保存活用を考える上では重要なものであるため、別項として独立させるのがよいという指摘があった。また、近代に関わる価値についても、近代移行期の江戸城が他の城郭とは異なる経過をたどって皇城となり、現在に至っているという歴史的経緯を踏まえるのであれば、史跡江戸城外堀跡を考える上でも重要であるという意見があった。景観に関する記載については、他の名勝の保存活用計画なども参考に修正するのがよいという指摘があった。

2 審議事項について

【審議事項 1】 保存・活用・整備等の現状・課題について

- ・事務局より、史跡江戸城外堀跡の全体をめぐる保存・活用・整備等の現状・課題についての文案について説明した。
→『江戸城外堀跡保存管理計画』策定後の調査・研究で明らかになった事実も踏まえ、現状・課題についても更新する必要があるという指摘があった。また、歴史的な部分に限らず、都市で暮らす人々の感覚(憩いの場、親近感など)も踏まえて、保存活用を検討していく視点も必要だろうという意見があった。

【審議事項 2】 保存活用の大綱・基本方針について

- ・事務局より、史跡江戸城外堀跡の「保存活用の大綱・基本方針」についての文案について説明した。『江戸城外堀跡保存管理計画』を継承しつつ、策定後の調査研究の成果を踏まえて文案を作成し、提示した。基本方針については、文化庁の指針に基づき記載した。
→本質的価値の議論を踏まえ、「江戸城外郭としての価値」ではなく「江戸城外堀の価値」と明確に書き、その価値を保存し、伝えることで価値が顕在化していくのだという姿勢が表れるようにすべきという指摘があった。風致の問題に関連して、「緑地・水辺」という地表面の話だけではなく、水があるかないかにかかわらず、堀という空間が残り、それが都心部のまちの構造に影響を与えているということに着目した方がいいという意見があった。

3 連絡事項について

- ・次回委員会は来年度 6 月頃の開催を予定しているが、改めて日程調整を行うこととなった。